

そよかぜ診療所・はるかぜ診療所での地域研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 臨床研修医 栗花落 直人

初期研修期間の地域研修先を考えるにあたり、先輩より勧めて頂いた経緯から私もそよかぜ診療所での地域研修を希望しました。大学病院から地域研修のスケジュールが発表され確認すると極寒の2月ということで、私の地域研修の準備は車にスタッドレスタイヤを履かせるところからスタートしました。

研修の初日、雪景色を見ることなく朝来市に到着しスタッドレスタイヤが無用に思えたのも束の間、1週目より最強寒波が到来し朝目覚めるとそこには白銀の世界が広がっていました。神戸では見ることのできない雪景色に感激しましたが、雪道での運転は経験がなく非常に不安でしたが、診療所スタッフの方がコツを教えてください大変助かりました。

そよかぜ診療所では午前採血やエコー検査を行い、午後は訪問診療に参加させて頂きました。エコーに関しては、苦手意識が強かったため正確に行えるか不安でしたが秀樹先生と静子先生が丁寧に教えてください、数をこなす内に1人で描出できることが増え、成長を実感できました。

訪問診療では最初の2週間は静子先生と一緒に回り、後半2週間は単独で診療させて頂きました。前半の2週間、静子先生の訪問診療を見学させて頂きましたが、患者さんとの関係が決して堅苦しいものではなく、うち解けた長年の仲間のように見えたことが印象に残っています。先生の顔を見ると安心される患者さんと笑顔でお話しされる静子先生から、この地域で築かれた信頼関係が垣間見え、温かい気持ちになりました。

また、2週目の金曜日ははるかぜ診療所でもお世話になりました。黒瀬先生の外来を見学させて頂き、急性期の治療を終えられた患者さんがその後の人生をどのように歩まれるか見守ることが地域診療所の役割だと教わりました。来年度以降、自分が主治医になった患者さんが退院後どのような人生を送られるのか今まで以上に考えながら診療にあたりたいと感じました。また、はるかぜ診療所での研修日は隣のCafé Ginで昼食を頂き、とても美味しいパスタとカフェラテで心が温まりました。帰りにはライトアップされた竹田城跡を麓から観ることもできました。

あっという間に過ぎた1ヶ月でしたが、温かく受け入れて下さった診療所スタッフの皆様、関わらせて頂き温かいお言葉を下さった患者様・ご家族様、本当にありがとうございました。大変充実した地域研修を行うことができました。

また暖かい季節の朝来にも訪れたいと思います。